

## 福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 10 月 15 日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

「元気つくし」は収穫が終了しました。「ヒノヒカリ」は 10 月 18 日頃終了の見込みです。10 月下旬には「実りつくし」、「ヒヨクモチ」の順で収穫予定です。「ヒノヒカリ」以降の中晩生品種は、穂数が平年よりやや多いものの、出穂後の日照不足により登熟はやや劣り、収量は平年並みの見込みです。紋枯病、穂枯れが一部で見られますが、トビイロウンカによる坪枯れは発生していません。一部、台風 24, 25 号により倒伏が発生しています。

収穫時期は、出穂後の積算気温に加え黄褐色粳比率と粳水分を確認し、刈り遅れないよう留意しましょう。また、縞葉枯病発生地帯では稲株のすき込み、休耕田の耕起や畦畔の雑草管理を行いましょ。

### ◇大豆（フクユタカ）◇

現在、子実肥大期です。6 月播は、葉の黄化が始まっています。主茎長は平年並み～やや短いです。茎数は播種後の土壤乾燥による苗立の良否でほ場間差が大きいです。1 茎当たりの莢数は平年よりもやや多いです。一部、台風 24, 25 号により倒伏が発生しました。倒伏や 9 月からの日照不足による粒肥大抑制が懸念されます。地域によりハスモンヨトウ、カメムシ類、葉焼病の被害が見られます。アサガオ類やヒユ類などの雑草多発ほ場も散見されます。

大型雑草は、汚粒発生防止や効率的に収穫作業ができるように、早めに除去しましょう。

### ◇イチゴ◇

定植後の降雨により活着は良かったですが、その後の曇天や夜間の低温の影響で、生育はやや緩慢で 5 日（展葉 0.5～1 枚）程度遅くなっています。早期作型（9 月 15 日前後迄定植）の出蕾は、定植日の早いものから始まっており、出荷は 11 月中下旬から始まる見込みです。

マルチ被覆時には畝表面が硬くなっているので中耕を行いましょ。また、摘葉後にハダニ防除を徹底しましょ。炭疽病が多発したほ場は、秋ランナーなどを活用し親株を更新しましょ。

### ◇キウイフルーツ◇

「レインボーレッド」は 9 月 25 日から 10 月 5 日に集荷されました。かいよう病の発生による園地の減少、高温乾燥による樹勢低下、果実肥大不良等により集荷量は前

年より少ないです。「甘うい」は、10月上旬から中旬にかけて集荷され、出荷量は179tの見込みです。「ヘイワード」は、11月上旬から集荷予定です。結実は平年並みですが、高温乾燥の影響で落葉や葉やけの発生がみられ、夏季の果実肥大がやや停滞し、出荷量は前年よりやや少ない見込みです。

収穫果実は、温度が上がらないように日陰に置き、落葉程度が激しい樹については、空洞果の発生に注意しましょう。また、果実が濡れると、腐敗しやすくなるため、雨天の日には収穫しないようにしましょう。

#### ◇イチジク◇

収穫は無加温ハウスではほぼ終了、露地では7～8割終了し、現在の出荷は比較的順調に推移しています。9月の果実肥大は平年並み～やや小玉、品質は食味良好です。台風の影響で、風傷果の発生はやや多いです。病害虫は、一部ショウジョウバエ、黒葉枯れ病の発生がみられます。

腐敗、カビ、裂果対策として、適期収穫、適正な選果、予冷等鮮度保持対策を図り、ショウジョウバエの誘発を防ぐため過熟果や腐敗果は除去しましょう。また、収穫が終了した施設栽培では、過乾燥による根傷みを防止するため灌水を徹底しましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月出荷）は終了し、販売単価は、台風の影響や高温により高冷地産が早めに減少したため、高く推移しました。秋出荷作型（10～11月出荷）の開花は、定植後の高温・高日照により、例年より1週間程度早まる見込みです。

11月出荷分は10月下旬から15℃加温を行い、開花を促進させ、日中は換気に努め茎葉の締まった株づくりを行いましょ。また、斑点病、灰色かび病、夜蛾類の対策を徹底しましょう。

#### ◇豚、鶏◇

9月の豚枝肉価格は、全国的な冷凍在庫のだぶつき等により、対前年88%と低下しましたが、過去5年平均並みの556円となりました。鶏卵価格は、前年並みの189円でしたが、過去5年平均はやや下回りました。

豚コレラ等発生予防のため、農場の衛生管理を徹底しましょう。また、稲WCSや稲わら収穫、牧草の播種作業等農作業事故に注意しましょう。